

宮古発

保存に国の交付金



津波で被災した宮古市の「たろう観光ホテル」の保存へ市に2億1000万円の交付金が配分されることになりました。国の復興交付金が「震災遺構」の保存に充てられるのは初めてです。「たろう観光ホテル」を震災遺構として保存し、防災意識の向上や田老地区のまちづくりにつなげるため、保存工事費を国の復興交付金から宮古市に配分します。ホテルには津波が4階まで押し寄せ、骨組みが一部むき出しになるなど、その猛威を伝えています。土地と建物は市が買い取り、今年度中にも建物のさび止めなどの工事に入り、維持や管理に必要な経費は寄付金や入場料収入でまかなう予定です。(11/29 ニュースエコー)

大船渡発

盛駅にクリスマスツリー

去年12月リニューアルしたJR大船渡線の盛駅は現在BRT（バス高速輸送システム）の停留場として利用されていますが、この待合室をより親しまれる場所にしようとクリスマスツリーが設置されました。大船渡市が設置した高さおよそ2メートル半のモミの木に、普段BRTで通学している大船渡東高校の生徒達がリボンやオーナメントなど煌びやかな飾り付けを行いました。キラキラと輝く光がまたたくと、待合室はクリスマスモードに包まれていました。(11/29 ニュース)



釜石発

安倍総理視察



安倍総理は釜石市を訪れ、震災復興に向けた住宅再建の取り組み状況などを視察しました。安倍総理の県内視察は就任後3回目です。最初

に災害公営住宅を訪れ、野田武則市長から地元の民間企業と市が協力して早期の建設が実現した住宅再建の取り組みについて説明を受けました。このあと仮設住宅を訪れ「災害公営住宅の建設スピードを上げたい」と今も避難生活を続ける住民を激励しました。(12/1 ニュース)

釜石発 鵜住居地区防災センター

解体工事始まる

東日本大震災の津波により多くの人が犠牲となった釜石市の鵜住居地区防災センターの解体が始まりました。解体作業を前に法要が行われ、遺族や工事関係者などおよそ100人が焼香して犠牲者の冥福を祈り、センターに最後の別れを告げました。作業は到達した津波の高さを示す壁や祭壇など、保管を決めている物を取り外してから本格的な解体を始めます。跡地について遺族は追悼施設を備えた公園の整備を求めています。



(12/2 ニュースエコー)

大船渡発

さんりく元気ラジオ

(ワイドステーション内毎週水曜日放送)

今週は大船渡「FMねまらいん」の及川透子さんが、今月と来月のイベント情報を伝えてくれました。まずは、大船渡市の盛駅から貸切列車に乗り往復2時間の旅をする「クリスマス列車」についてです。今月23日～25日まで運行され、列車内ではサンタと一緒に楽しいひと時を過ごすことができます。(詳細は三鉄盛駅ふれあい待合室まで) また新春1月には、10マイルロードレースや10キロロードレースを同時に行う新春四大マラソンが開催されます。毎年2000人以上の方が参加する大会で、今回もぜひたくさんの方に参加して欲しいと話していました。(詳細は大船渡市体育協会まで) (12/4)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122